

1/2 マタイの福音書 18 章 21-35 節 「自分の兄弟を心から赦す」

小池 宏明 牧師

今日のたとえ話は、ペテロのイエス様への質問から始まる。21 節「・・・「主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何回赦すべきでしょうか。七回まででしょうか。」」これに対して 22 節「イエスは言われた。「わたしは七回までとは言いません。七回を七十倍するまでです。」」これは、無限に赦し続けなさい、という教えである。

*無限の愛を示された王

この教えを分かりやすく伝えるためにイエス様は天の御国の「たとえ」を語っている。23-27 節「ですから、天の御国は、王である一人の人にたとえることができます。その人は自分の家来たちと清算をしたいと思った。清算が始まると、まず一万タラントの負債のある者が、王のところに連れて来られた。・・・それで、家来はひれ伏して主君を拝し、『もう少し待ってください。そうすればすべてお返しします』と言った。家来の主君はかわいそうに思って彼を赦し、負債を免除してやった。」天の御国の王様とは、救い主イエス・キリストのことを指している。王の家来たちとは、教会のことであり、主にある兄弟姉妹、私たちのことである。1 タラントとは、6,000 デナリ、1 デナリは、一日分の労賃に相当する。例えば一年間に 300 日働いたとすると、20 万年間働いた賃金が一万タラントなのだ。しかし、驚いたことに、家来の君主である王様が、かわいそうに思って、この負債をすべて免除した。これは、私たちが、主イエス様から、罪の負債を全部免除されたことを意味する。主イエス様は、私たちの過去、現在、未来に至るまで、すべてのすべての罪咎を赦される。主は、私を赦すために十字架の道を選ばれたのだ。

*仲間を赦せない家来に

ところが、家来は、こんな大きな憐れみと恵みを頂いたのに、自分が払った小さな犠牲の方が気になって仲間を赦さなかった。(28-30 節) 王様は家来に対して、当然のように怒った。32-33 節「そこで主君は彼を呼びつけて言った。『悪い家来だ。おまえが私に懇願したから、私はおまえの負債をすべて免除してやったのだ。私がおまえをあわれんでやったように、おまえも自分の仲間をあわれんでやるべきではなかったのか。』」ここで、主は憐れむべき義務があると言っている。私たちは無限大の負債を、すべての罪咎を、赦されているので、仲間に対して、憐れみの心を持って、心から赦す必要がある。教会の兄弟姉妹も、近い家族や友人も、憐れみの心で受け入れて赦しなさい、と願われている主イエス様なのだ。このたとえ話は、自分に対して罪を犯す者、過ちを犯す者であっても、心から赦しなさい、と命じているが、その背後には、主イエス・キリストの無限大の愛と憐れみが隠れているのだ。